

第 1 回第 3 次防府図書館サービス振興基本計画策定協議会 会議記録

□開催日時 令和 7 年 3 月 7 日（金）午後 2 時 45 分～午後 4 時 00 分

□開催場所 市役所 2 階共用会議室

□出席人数 8 人

□概 要 （発言要旨の文書表現は、簡略化しています）

◎資料確認

1.教育長挨拶

2.委員自己紹介

3.会長・副会長選出

4.議題 ・「第 3 次防府市図書館サービス振興基本計画」のスケジュール
・基本的な柱（骨子案）について

【事務局説明】

資料 1 第 3 次防府市図書館サービス振興基本計画の策定に向けて

・第 1 回目の防府市図書館サービス振興基本計画策定協議会の主な目的は、計画・策定のスケジュールと基本的な骨子案の確認。

・本市の図書館サービスの経緯の振り返り。

・本市の図書館サービスは、平成 18 年に、本市独自の図書館サービスに係る七つの主文と 18 の事柄を「私たちの目指す図書館像―防府図書館の任務と目標―」として制定し、図書館サービスの理念とした。

・平成 24 年には、文部科学省から「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示。

・平成 28 年に公益財団法人防府市文化振興財団を図書館の指定管理者として運営を開始し、それを機に改めて図書館のサービスの在り方について原点から考えてみることにしたのが、「第 1 次防府市図書館サービス振興基本計画」。この計画は、「私たちの目指す図書館像―防府図書館の任務と目標―」を基本的な柱とし、サービスの方向性や取組などについて具現化したもので、市では外部委員で構成された、図書館協議会を設置して図書館サービスの点検や評価を行ってきた。

・その後、令和 3 年 3 月には、社会情勢の変化や地域課題に対応するため、「第 2 次防府市図書館サービス振興基本計画」を令和 3 年から令和 7 年までの 5 か年計画として策定。今年度がその 4 年目。

（策定の目的）

図書館のサービスを推進するための総合的かつ体系的な指針として、基本的な考え方や図書館の事業等の方向性を示すもの。

（位置づけ）

・上位計画である市の総合計画と市の教育振興基本計画に合わせて、令和 8 年度から令和 12 年度までの 5 か年の計画として、他の計画との一体的な推進を図っていく。

(計画の基本理念)

・「私たちの目指す図書館像―防府図書館の任務と目標―」資料 2 の 7 つの大項目と 18 の事柄。これまでのサービス理念を継承しつつ、新しい課題や取組について検討し、図書館サービスの更なる向上を図ることを目指す。

(計画体制)

・防府市図書館サービス振興基本計画策定協議会は、学校教育、社会教育、家庭教育推進の関係者、学識経験者及び公募委員で構成され、計画の協議や検討を行っていただく。

・教育委員会は市民を対象としたパブリックコメントを行うことや、防府市議会への報告や計画案の決定を行う。

(スケジュール)

・計画の策定までに 4 回程度開催予定。市の他の計画等と一緒に進行予定で、多少前後する。

・第 1 回目(本日の会議)の議題「スケジュールの確認と基本的な骨子案について」

・第 2 回目は 5 月「計画の素案について」を予定。

素案は、第 2 次サービス振興基本計画に基づく図書館のサービスについて、毎年、点検・評価をしている図書館協議会の意見等を参考に、事務局の方でたたき台を作成。計画の方向性や取組に対して、御意見をいただく。

・第 3 回目は 7 月「パブリックコメント(案)について」を予定。

・9 月頃にパブリックコメントを実施予定。

・第 4 回目はパブコメ後となり、「計画の最終案について」を予定。

・11～12 月には議会及び教育委員会に報告し、令和 7 年度内に第 3 次計画を策定。

(計画期間)

・令和 8 年度から令和 12 年度までの 5 か年計画

(計画の方針)

・次期計画は、これまでの基本計画を引き継ぐと共にこれまでの振り返りをしつつ、急速に変わりゆく社会環境や地域の実情に応じた図書館サービスの提供が出来るよう、取組の指針となる計画になる。

・色や図を入れて手に取りやすく、見やすいものになるような構成にしていく。

以上、事務局からの説明

【質疑応答・意見】

(委員)

・次期計画では、図書館の基本的な業務でも変わる面と変わらない面があるので、その辺りも考える必要がある。

・特に変化が大きいデジタル化が代表だと思う。5 年後を予想するのは大変だが、SNS の

活用や電子図書館も始まっている。今後、生成A Iをどう活用するかについても盛り込めるとよい。

- ・防府図書館はボランティア団体との協働が特徴なので、サークルの高齢化が問題。

(委員)

- ・デジタル化は避けられない。子どもたちの方がよく利用していると感じる。電子書籍でいうと、紙の本と電子図書の購入比率が変わってきているというが、これでいいのか。限りある予算をどう使うかということを含めて、作ってほしい。子ども向けの電子書籍もとっかかりとしてはいいが、ずっとそれではいけないと思う。紙の本への窓口ということであればよい。一般の方向けの電子書籍も必要かと思う。

- ・生成A Iについては、図書館とは無縁ではないので、その辺をどう取り入れるか。読書バリアフリー法もあるので、合理的配慮がないといけないと思う。

- ・手助けの必要な高齢者には手厚くするが、生き生き活動しているアクティブシニアの方たちをどう取り込むか。どう活動してもらうかを盛り込む必要がある。

(委員)

- ・サークルが、どんどん高齢化している。5年間持つかどうか、そして、後に続くボランティアサークルが、出てくるのかと心配している。

- ・少子高齢化が避けられず、5年後はさらにそれが進むので、ボランティアやサークルが続けやすいように、図書館も協力しているが、更にみんなに広がるようなボランティアについて盛り込めたら良い。

(委員)

- ・ボランティアにも若いクラブと後期高齢者の多いクラブとあり、その接点が大変難しい。若いクラブは、すぐく動いているので、高齢者の多いクラブが、どう若い人たちに繋げていくか、考えていかなければいけない。

- ・図書、本というのは永久に不滅だと思う。図書館は子どもから高齢の人まで、みんなが楽しめる場所であり、本はみんなが楽しめるもの。次の世代への世代交代を考えていかなければいけない。

- ・読書クラブの募集がでているが、毎週定期的にやっていただくように指導者に言った。指導者がひとりでも来て、子どもたちを指導してほしい。私たちも努力の必要があると思う。

(委員)

- ・図書館の利用については、子どもたちはデジタル化の波にすっかり乗っている。中・高校生も、ひとりで活動する、ひとりの個人的な楽しみで読書が済んでいると思うので、その子どもたちをどうにか繋げていくというところに、図書館がなってほしい。

- ・電子図書館は子どもたち向けだけでなく、本だと読みにくいと感じる人が、電子書籍を使うと便利だと思う。ただ、使いこなすためには、知識が必要。その辺りの周知は、地道な作業だと思うが、この5年間で行い、ずっと生涯続けられるようにできる図書館になったらよい。

(委員)

・高齢化の問題。ボランティアを続ける方が、決まった方になって、なかなか若い方が入らないという問題がある。

・赤ちゃんのブックスタート事業に図書館が参入したり関わったりするということができるといいと思う。例えば、生まれてすぐに、防府市が、お子さんの名前や写真入りの図書館利用カードをプレゼントし、親子で図書館に行くことを紹介、奨励するとよい。乳児検診とかでもいい。

《事務局》

・赤ちゃん文庫は社会福祉協議会の費用で、赤ちゃんが4か月くらいになるまでに母子保健推進委員さんが訪問し、絵本をお渡しする。絵本の大切さについて、保護者の方とお話するという形でやっている。

(委員)

・そこに図書館が関われないか。

・図書館をよく利用される方と来ない人が二極化している。多くの人に図書館を周知して、図書館は無料で子どもたちに夢を与えられるというPRをしっかりとする。赤ちゃんの時から取り込んでいくといいなと思う。

・担任の先生が、授業等でよく学校図書館を利用したり、教室でも読み聞かせや本の紹介をされたりしているクラスは、自主的に学校図書館を利用する児童、生徒さんが多くなるように見受けられる。担任の先生の影響力は、とても大きいので、そういう活動の積み重ねが、大事。学校図書館を上手に活用して、子どもたちが本に親しむ、本を見る機会を増やすことが公共図書館の活用にも繋がると思う。

(委員)

・先に出た二極化が社会の中で問題になってきている。図書館の役割として、人々を繋げる、また取り込んでいく、そして更に市民活動レベルで動く中で、子どもたちも参加して動けると良い。図書館が、様々な行事等々で、生き生きと活動出来る「場」になるといいと思う。

(委員)

・子ども読書フェスティバルも、子ども参加型に変えているので、ずいぶん賑わいが出てきた。

(委員)

・全く興味を持ってもらえない集団も多いと思う。

(委員)

・市立図書館には、学校図書館に対して、とても協力してもらっている。その例が、毎年の選書会の本の貸出し。小学校にはとても貴重。学校司書が、担任から頼まれた本を図書館に借りに行った際にも、快く貸してもらっている。これからも継続を望む。

・移動図書館については、子どもたちが学校の本だけでなく図書館の本に触れる機会にもなっているので、継続してほしい。

(委員)

・防府図書館の場合は、地域に本館が一館あって、移動図書館車が周辺部を巡回している。市町村合併をした自治体のように、分館や地域館がない。山口市だと、本館・中央館があって、各地域に分館、従来からの図書館がある。防府には分館がないため、市民一人当たりの個人貸出件数が、若干県内の平均に比べると低い。その代わりに、学校図書館が充実している。これからも本館と共に学校図書館の充実を教育委員会をお願いしたい。この計画の中にも反映してほしい。

・生成AIについては、メリットもずいぶんあるが、反面、リスクもある。どういったデータを入力し、学習するかによって回答が変わる。例えば、イベントのキャッチコピーなんかは、AIを使うとさっと出てきたり、案内文でも要領よくまとまったものが出てきたりするようだ。反対に、特定の項目や専門的な項目、郷土資料などは、データが入ってなければ、誤回答する。図書館のレファレンスにそのまま使える状況ではない。図書館が活用していくのは問題がある。また、市の方針、教育委員会の方針等も関わるため、教育振興基本計画の中でも論議されると思うが、この5年10年でずいぶん変わっていくと考えられる。紙媒体の図書資料、新聞、雑誌と共にデジタル資料も活用していかないといけない。

(委員)

・図書館閉架書庫の収納能力を超える所蔵冊数への対処について、図書館の書庫にある複本や傷みの少ない除籍本を、蔵書数の少ない学校へ持っていけないか。空き教室もあると思うので、防府図書館の分館という形で、一室を図書室にし、本を少し移動させて、活用できないかと思う。

・児童センターに置いてある本が、大変古いと聞く。いろいろな場所、人たちが、必要としているのであれば、図書館以外の所で活用出来ないかなと思う。

《館長》

・各公民館に地域文庫があり、200冊の本を3か月に一度、交換している。それ以外にも地域や小学校等にも要望があるところには、本を出している。更に留守家庭児童学級からも御要望があれば、本を貸出していており、既に制度がある。

(委員)

・もっと大がかりな分館について考えてはどうか。なかなか図書館に来館できないような周辺地域の、例えば学校の空き教室を利用するとか、公民館はあると聞いたが、冊数を増やすとか、入れ替え作業が大変だと思うので、少し期間を長くしたり本を増やしたりすると良い。

(委員)

・いろいろな御意見がでた。参考にして、検討して、盛り込めるものは盛り込んでいければと思う。

《事務局》

・次回の会議予定について、5月中旬、下旬くらいで開催。内容は計画の素案についての協議となる。